

二人三脚 これからも共に歩んで



年忘れ会で福笑いをしました。

Tさん(左)

今回は、利用者Tさんの昔の姿を振り返りながら現在の取り組みを通しての成長をご紹介します。

20年以上足羽更生園に勤務している支援員に心に残る思い出を聞きました。

「Tさんとの思い出」

Tさんを担当した20年前：その頃、Tさんもまだ若くとも活発でした。活発というよりは、目が離せず、どこに行くにも職員と行動を共に

していたように思います。

ある日のこと、Tさんと私が居室に入るなり、置いてあった百科事典をいきなり天井に投げました。しかし、その百科事典は落ちてこず、天井に突き刺さったままでした。本が刺さるなんてびっくりしました(笑)。

また、消火器を触り、廊下中を真っ白にした日もありました。このときは、Tさんも驚いていたようでした。今なら笑えますが、そのときは、消火器の粉末の掃除でどうしたらよいのか？と考え込んだことも心に残っています。

そして、食事にいたっては落ち着いて食べることができず、食器を投げたり、お膳をひっくり返したりする日々でした。



出会ってからもう20年です。

担当になった1年目は、どうしたらいいのか毎日悩んでいました。

でも、Tさんは絵本や昔話が好きで、絵本を読んでもらっているときは、とてもうれしそうな笑顔でした。今でも「むかし、むかし」と語りかけると笑顔はあおのまです。

「やわづら心」

Tさんとお母様の関係は、とても愛情にあふれたものでした。お母様が面会に来られているときは、ずっとそばで穏やかに過ごしており、ときどき、散髪をしていただくのを憶えています。

そんなやさしいお母様の愛情を受けたTさんは、職員が具合が悪いとそばで、じつと心配そうに見守ってくれりやさしさも持っていました。

Tさんの行動に悩まされることもありましたが、そんなTさんのやさしさや笑顔が私を支えてくれました。

(斉藤紀子支援員)

「時の流れ」

それから年月が過ぎるなか、Tさんのお母様が他界され、その後、定期的に面会に来られていたお父様も他界されてしまいました。そして、昔からのTさんをよ

く知る職員も、退職や異動で少なくなっていました。

いつの頃からか、あんなに活発だったTさんは、居室にこもるようになり、活動に参加しないようになりました。また、衣類を身につけることも嫌がるようになり裸で過ごすことが多くなりました。

「最初の一步」

そこで、現在Tさんが所属するカシオペア寮の職員全員でTさんが「活動の楽しみを知り、豊かな生活を送れること」を目標とした取り組みを開始しました。

まず取り組んだのが、Tさんと職員の信頼関係の構築でした。新人の職員も含め、身近な職員から信頼関係を築けるよう、午前中の活動に参加できるよう声をかけ、活動場所に来れなくても、居室でできることをしながら、Tさんを気にかけてい

るといふ職員の気持ちを伝えていきました。

そして、午後は少しでも居室からフロアに出てこられるよう、Tさんの好きな音楽を聴けるようにしたり、過ごしやすい場所を設けたりしました。また、絵本を読む時間を毎日つくっていきましました。

「三歩進んで 一歩さがる」

こうした取り組みを続けていくことでTさんと気持ちに通じ合えるようになってきたように思います。そうすると少しずつTさんも職員の促しに応じてくれるようになりました。

まず、衣類を身に着けられるようになり、食事も落ち着いて食べられるようになりました。さらに、活動に参加できるようになりました。しかし、すぐに居室に戻ってしまう、大声を出す、

物を投げることもしばしばありました。



活動の音楽に合わせ笑顔でリズムをとっています。

それでも、参加できたことを「褒める」ことを大事にしながら、活動に参加できた喜びを感じてくれるように、毎日、付き添いながら参加を促していききました。そうした日々を積み重ねていくうちに、活動を楽しむ積極的な姿も見ることができるようになってきました。

Tさんの変化は、私たちに信頼関係の大切さだけでなく、改めていろいろなことを教えてくれるものでした。

あるとき、上司より「今のTさんの様子を、ご両親にも報告できるとよかったですね」と言われました。

この一言は、「いつまでも子を思う親の心を忘れてはいけない」「利用者の方・ご家族のことを思う気持ちの大切さ」を感じさせる一言でした。

利用者の方の豊かな生活への前進が、私たち職員に支援の実りを感じさせてくれ、成長させてくれるものだとは強く感じる経験ができました。

みんなの広場

緑のカーテン



ときは、涼しげな風を感じることができました。

去年の夏が、特に暑かった分、緑のカーテンのおかげでエアコンの使用を減らしたり、冷房の設定温度を下げたりしなくても過ごすことができました。

ゴーヤの実り、朝顔の花のきれいさも楽しむことができ、緑のカーテンは一石二鳥です。

足羽更生園・足羽学園では、エコ活動の一環として、緑のカーテンをつくっています。

平成22年の夏は、ゴーヤと朝顔を育てることにし、5月ごろより苗木、木の枠を準備し、暑い夏に備えました。

打ち水をするより効果的で、木陰の通路を歩く

